

警 察 署 協 議 会 議 事 録

協 議 会 名	令和6年第2回宮城県気仙沼警察署協議会
開 催 日 時	令和6年6月25日（火） 午前10時00分から 午後11時20分まで
開 催 場 所	宮城県気仙沼警察署大会議室
出 席 者 等	<p>1 協議会委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席委員～ 清水敏也会長 川村律子委員 菅原敬子委員 菅原生子委員 ・ 欠席委員～ 熊谷敬一郎副会長、佐藤梨華委員 <p>2 警察署側</p> <p>署長 副署長 会計課長 警務課長 生活安全課長 地域課長 刑事課長 交通課長 交通課課長代理 警備課長</p>
議 事 概 要	別紙のとおり
備 考	

備考 所定の欄に記載することができないときは、別紙に記載の上、添付すること。

別紙

1 報告事項

(1) 前回質問事項に対する回答

【質問事項：宮城県の全自治体における気仙沼市の治安状況について】

警務課長から、令和5年中における宮城県市区町村別刑法犯認知状況について説明がなされた。

【委員】

警察の立場から見て、人口千人当たりの認知件数は、どのくらいから多いと感じるものなのか。

【警務課長】

一概に何件からが多いというものはないが、治安の考え方には、指数治安と体感治安というものがある。

例えば、認知件数が100件減ったとしても、殺人事件が3件発生したら体感治安は明らかに悪化する。

気仙沼警察署管内では、幸いそのような凶悪事件の発生はないので、数字的にも体感的にも治安はいい方なのではないかと考えている。

【委員】

認知されていない潜在的な数字は警察で把握しているのか。

【署長】

事件性があるもので届出がなされたものについては、100%被害届を受理しているが、被害に遭っているものの、被害届が提出されていないものや通報などもまったくないものについては把握が難しい部分もある。

各種警察活動により可能な限り現状の把握に努め、漏れのない治安維持活動に努めている。

(2) 管内の治安情勢等について

刑事課長及び交通課長から、令和6年1月から5月中における刑法犯認知件数と交通事故発生件数等の管内治安情勢について説明がなされた。

【委員】

免許更新について、管内では高齢者が関係する事故が多いと聞いたが、高齢者が免許の更新を希望すれば、それはすべて通ってしまうのか。

【交通課長代理】

高齢者等の免許更新時には、認知機能検査等の適性検査を実施している。

持病の有無なども確認し、異常がなければ更新となる。

【委員】

地域の高齢者は、歩くのはつらいが車を運転するのは大丈夫という人が多い。

自分は大丈夫だという高齢者が多く、なかなか運転免許証を返納しない人が多くて大変だと思う。

【委員】

私の知人で、84歳で免許を更新し、新車を購入して岩手県の久慈まで運転し、帰りに事故を起こした者がいる。被害者も加害者の家族も大変だと思う。

また、別な知人は92歳で免許を更新したことがきっかけで、家庭内でケンカをす

ることが増えたという話を聞いた。

免許の更新に年齢制限などはないのか。

【交通課長代理】

免許証の取得年齢に下限はあるが、更新年齢に上限はない。

運転適性に疑いのある方に対しては、アクセルからブレーキに踏み替える時間を測定するなどの適性診断を行っているほか、家族からの相談などを端緒に免許返納に関するアドバイスを行うこともある。

【委員】

刑法犯認知件数が昨年度比で13件増加しているが、この数字は多い方なのか。

【署長】

多いと感じている。まだ5月末であるが今後も減る傾向にはないと思う。

コロナも終わり、色々な人が管内に入ってきているということもあり、恋愛感情のもつれに起因する犯罪や傷害事件などが増えている。

重大事件の発生こそないものの、交通網の発達により今後重大事件や手交型の詐欺事件などの発生も懸念される。いずれにせよ、予断を許さない状況である。

【委員】

高齢者の免許保有率について、他の市町村の状況はどのくらいなのか。

【交通課長代理】

当署管内においては、免許保有者の35%が高齢者であるが、仙台市内などは20%を切っている。

他の管轄で当署より割合が多いのは、登米、鳴子、若柳などである。

【委員】

高齢者の事故が多いと聞かすが、年代別の事故発生率など数字的なデータはあるのか。

【交通課長】

令和6年中の年代別事故発生状況について回答がなされた。

【委員】

免許の返納も含め、年代別の交通事故発生状況などの統計データのものは、非常に有効だと思うので、ぜひ今後の活動に活用していただきたい。

(3) 特殊詐欺の現状と対策について

生活安全課長から、令和6年5月末現在における管内の特殊詐欺認知状況や被害抑止対策等について説明がなされた。

【委員】

年齢が上がると被害金額も上がると思うので、当然高齢者に対する被害防止対策は必要だと思うが、小中学生に対して、正しいSNSの使い方などの防犯対策も大事だと思うがいかがか。

【生活安全課長】

若い世代のネットリテラシーというものは非常に重要であると考えている。

当課においても補導員を中心に管内の小中学校から依頼を受けて訪問し、ネット被害の未然防止教室を月に数回のペースで実施している。

学校と連携し保護者にもアプローチするという部分も多々あるので、特殊詐欺の視点も含めて今後も実施していく予定である。

【委員】

最近あった話として、私の知人の元に息子を騙る者から「300万円ほしい」との

電話が来た。

その方は、ちょうど忙しかったため、まったく相手にしなかったところ、電話が切れたという。

幸い何の被害もなかったが、今でもそういった電話があるということで事例を紹介する。

【生活安全課長】

その方が65歳以上であれば、特殊詐欺電話撃退装置を貸し出すことができる。

また同じような電話がかかってくる可能性はあるので、ぜひご検討いただきたい。

【委員】

撃退装置の導入方法等について、もう一步踏み込んだ広報活動があると地域の高齢者などは設置を検討するのではないかと。

【生活安全課長】

当課では、防犯講話の依頼を受けた際は、各地区の会合に出向いて装置の案内や補助金の制度等についてお話しさせていただいている。

希望があれば、個別にご家庭にお邪魔し、設置のお手伝いすることも可能なため、ぜひ当課にご相談いただきたい。

【委員】

自分は大丈夫だろうと考えている市民が多数いることが、被害が減らない一番の原因なのではないかと思う。

気仙沼署ではプロジェクトチームを立ち上げ、特殊詐欺被害の防止等に当たっていると聞いたので、引き続き対策に取り組んでほしい。

3 意見要望

【委員】

最近、唐桑町内の漁港付近ではイカが釣れるようになってきており、夜間の交通量が増えているほか、漁港付近でキャンプをしている者が見受けられる。

これに伴い、飲酒運転をする者が出てくる可能性もあるため、週末だけでもいいので夜間のパトロール活動を強化してほしい。

【委員】

熊の目撃情報があった際、警察の方でパトロールや広報活動を実施していただいているが、警察の方も十分に安全を確保したうえで、活動に当たっていただきたい。

4 事務連絡

次回の開催予定について

【警務課長】

次回の警察署協議会については、令和6年10月頃を予定しており、後日、詳細について連絡をする。